

おわりに

これで2年間の美術の課題は終了です。ただ作品を作るだけでなく、いろいろな角度から美術を見て、考えて、少しでも私達の住む「日常」とのつながりを感じてもらえれば良いと思っています。美術でいちばん大事なことは「自分で考える」ことです。いろいろな選択肢の中から何故それを選び取るのかを考えることです。私たちはそのためにものを一生懸命「見る」のです。そのことは単に美術だけの事にとどまらず、私たちがこれから生きていくうえでもきっと役に立つはずです。自信を持ってください。みなさんはもう出来るはずです。

ところでこのレポートにはみなさんの先輩が描いた作品がカラーの参考図版として掲載されています。みなさんの作品は毎年変わりますし、年を経るごとにそれぞれの課題に対するみなさんの捉え方も変わってきます。美術は常に「現代」に生きています。自分なりの新しい表現を見つけてもらえたでしょうか。

作品を掲載させていただいた、そして一緒に学んだすべてのみなさんに心から感謝します。

2021年

中根秀夫

報告課題集 美術Ⅱ

神奈川県立厚木清南高等学校通信制課程

©2021Hideo Nakane Ver.6.5

後期3 息で吹いてみる — アートってなんだろう 身体と行為

- 課題の種類：絵画
- 観点：振り返りシート参照
- 想定する制作時間：1時間

絵画は行為が物質として実体化したものである。

ジャクソン・ポロック

絵の具を紙の上に落として、息で吹いたり紙を傾けたりします。絵の具が動き出します。息で吹いて絵の具を動かすのは体力がいりますよね。絵は身体と関係していることがわかると思います。美術Ⅰの課題1「とじてひらく」(デカルコマニー)を思い出してください。あなたがそれを作品だと認めた時、はじめてあなたの作品としてそれが完成するのですよね。

[memo] ジャクソン・ポロック (1912-1956) アメリカ出身の20世紀前半を代表する画家。ドリッピングという技法を用いた。

用意するもの： 水彩絵の具、画用紙 (B5)

1. 画用紙の上に多めの水で溶いた水彩絵の具をたらしめます。絵の具が濃いと画用紙の上でうまく流れてくれません。
2. 紙を傾けたり、息で吹いたりしながら絵の具を散らしてみます。思った通りに流れないかもしれないがめげずに。デカルコマニーを思い出しましょう。
3. 3～4色を使って同じことを繰り返し、バランスをよく見ながら画面を作っていきます。自由に楽しくがポイントです。
4. 画用紙をいろいろな方向からながめてみましょう。いちばんよく見えるのはどの方向からでしょうか。画面のどちらが上になるかは最後に決めればよいでしょう。
5. 最終的にどこまで作品が完成するのか、自分で見極めてください。
6. 「振り返りシート」を記入してください。

ファッションが人間の身体にかかわるアートであるように、また建築が身体のサイズや身体の動線を意識したアートであり、デザインが身体の拡張を扱うように、絵を描くことは身体のアート＝表現活動であると言えるでしょう。人間が身体活動を通してどのような世界をめざすのか、それは同時にアートのめざす世界でもあります。この2年間いろいろな課題に取り組みましたが、もう一度「美術って何だろう」と問いかけてみたいと思います。絵の「良し悪し」と「上手下手」とは基本的に関係がありません。そこには「違い」があるだけで、その人が何を見て、何を考えるか、何を伝えるか、だけがアートと関係があるのではないのでしょうか。

生徒作品 自由に楽しく



振り返りシート 必ず提出すること

美術Ⅱ 後期3 《息で吹いてみる》 -アートってなんだろう	クラス	番号	氏名
観点の項目	自己評価	反省点やうまくできたと思うことなど。	
I 美術への関心・意欲・態度 美術選択の最後の課題として、「アートとは何か」を考えて取り組んだか。	A B C		
II 発想や構想の能力 予測が難しい絵の具の動きを理解したうえで、画面をコントロールすることを考えたか。	A B C		
III 創造的な技能 作業と作品の完成とをどこで折り合いをつけるかを自分なりに見極めることができたか。	A B C		
制作の感想、自分の作品を見て思うこと、表現したかったこと 一年間の課題を通して感じたり考えたりしたこと			

後期2 色と形を組み合わせる — 図と地ってなんだろう

- 課題の種類：デザイン 構成
- 観点：振り返りシート参照
- 想定する制作時間：1.5時間

輪郭を素描しそこに色彩を置くかわりに、一方が他方を調整しながら色彩の中に直接素描するのです。

アンリ・マティス

美術というものは、何も特別なものではありません。折り紙を使って、画面にいくつかの形をバランスよく配置する練習をします。残された背景「地」と配置する形「図」との関係をよく考えてみてください。出来上がったら画用紙に貼って提出して下さい。

[memo] アンリ・マティス (1869-1954) フランス出身の20世紀前半を代表する画家。「色彩の魔術師」とうたわれ、晩年は切り絵の作品を多数残している。

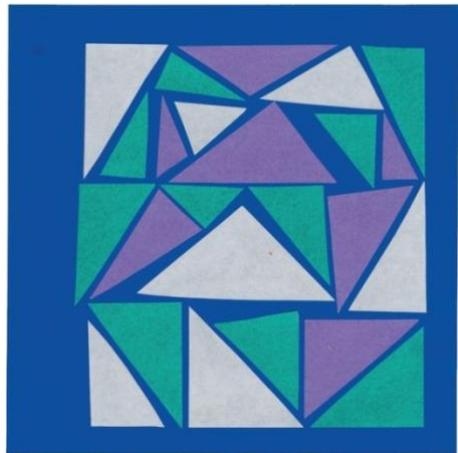
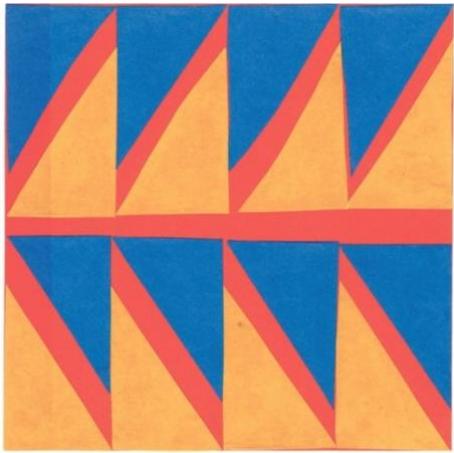
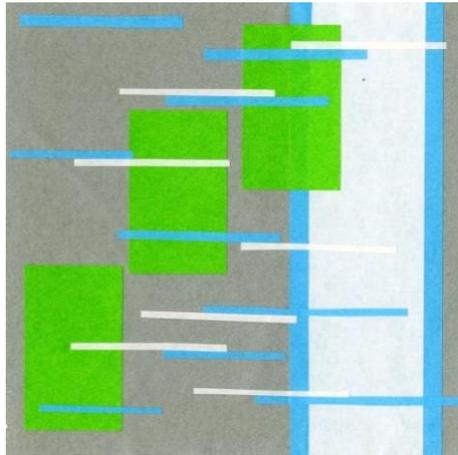
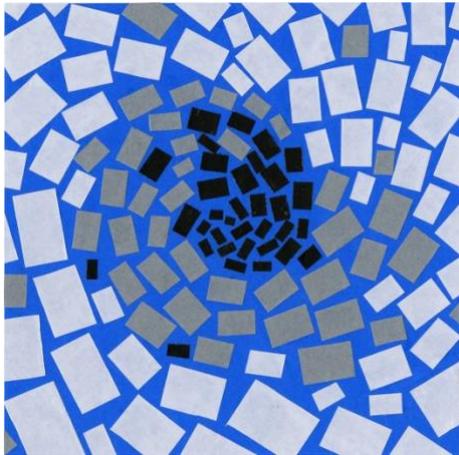
用意するもの： 折り紙、ハサミまたはカッターナイフ、のり、画用紙 (B5)

1. 折り紙を、好きな色の組み合わせで3～4枚選びます。そのうちの1枚を選んでそのまま背景に使ってください。
2. 残りが部分を構成するパーツになります。三角形、四角形、円などシンプルな形がよいでしょう。
3. 形、大きさなどに少しずつ変化をつけて、はさみで切り取ります。必ずしもきっちりと正確に切り取る必要もありません。曲がった不規則な線で柔らかさを出すこともできます。
4. 背景に選んだ1枚の上に、切り取ったパーツを配置していきます。数、方向などに変化をつけ「動き (リズム)」を感じさせるようにしましょう。
5. 画用紙を台紙にして出来上がった折り紙を配置します。余白のバランスを考えてみましょう。
6. 「振り返りシートに」タイトル、感想を忘れずに書いてください。

白い画用紙の上に絵を描くのとは違って、つねに背景の「地」の色とパーツの「図」の色、形、大きさとの響き合いが大事なのです。絵の具のように多くの色が使えるわけではありませんが、限られた色の中から響きあう組み合わせを見つけるのは楽しいことだと思いませんか。

時間があれば二つ作って、それをひと組の「対になる言葉」と結びつけてみましょう (画用紙はB4を使ってください)。p.2-3の一番下にある生徒作品の「うみともり」を参照してください。

生徒作品 自由な色と形



振り返りシート 必ず提出すること

美術Ⅱ 後期2 《色と形を組み合わせる》 -図と地って何だろう	クラス	番号	氏名
観点の項目	自己評価	反省点やうまくできたと思うことなど。	
I 美術への関心・意欲・態度 デザインとしての構成を意識し、楽しんで作品に取り組んだか。	A B C		
II 発想や構想の能力 背景（地）と配置する形（図）を意識し、動き（リズム）のある構成を考えたか。	A B C		
III 創造的な技能 素材としての折り紙を生かし、自分らしく魅力的な作品表現を目指したか。	A B C		
タイトル			
制作の感想、自分の作品を見て思うこと			

後期1 身のまわりを撮る — 写真ってなんだろう

- 課題の種類：映像メディア表現 写真
- 観点：振り返りシート参照
- 想定する制作時間：2時間＋撮影 教科書 54～55 ページ参照

だって写真になっちゃえば、あたしが古くなるじゃない

椎名林檎

カメラを使ってあなたの身のまわりを写してみましょ。日常をスケッチするつもりで、まずは気軽にシャッターを押してみてください。現像された写真を選択し、一枚の紙の上に並べてみましょう。美術Ⅰで使用した学習書 66～71 ページに詳しく解説してあります。ぜひ参照してください。厚木清南通信制で美術Ⅰを履修していない等、学習書がない場合はコピーを渡しますので申し出てください。

用意するもの： デジタルカメラや携帯、スマートフォンのカメラからのプリントアウト。 画用紙（B4 二つ折り可）、両面テープ、必要に応じてペンなどの筆記具。

1. カメラを持って外に出ましょ。興味を持ったものはどんどん写真におさめましょ。自分の仲間や家族、身の回りの風景など、とにかくシャッターを切りましょ。対象の近くに寄ったり離れたたり自分にとって気持のよい見え方（切り取り方）を見つけましょ。また、人を撮るときは、相手に許可をとるようにましょ。
2. カメラ店やコンビニでもプリントできるところがあります。自宅のプリンターから印刷してもよいでしょう。
3. プリントした写真から 4～5 枚程度を選び画用紙の上に並べてましょ。多くの写真の中からイメージを選び取ることで、テーマを絞り自分が伝えたいことをはっきりとさせましょ。
4. 画用紙の上は自分の世界です。ペンで言葉を書き添えたり、絵の具や色鉛筆などで自由に表現してかまいません。写真をハサミで好きな形に切ってもよいでしょう。
5. あなたの普段「見て、考えて」いることが画面に写っているはず。振り返りシートに感じたこと、思ったことを書ましょ。

注意：自分が何を見て何を考えているかを「自分で知る」ことがこの課題では大事なことで、必ず自分で撮った写真を使って下さい（「意図的に」自分が写った写真を使うということなら認めますが）。写真は個人にとって大切な記憶への入口にもなります。前期3の『思い出をつづる』とも関連があります。

振り返りシート 必ず提出すること

美術Ⅱ 後期1 《身のまわりを撮る》 -写真って何だろう	クラス	番号	氏名
観点の項目	自己評価	反省点やうまくできたと思うことなど。	
I 美術への関心・意欲・態度 学習書（美術Ⅰの）を読んで写真について考えたか。美術Ⅰを通信で取得していない場合は左欄へ。	A B C		
II 発想や構想の能力 自分の撮影した複数の写真の中から、テーマを見つけて画用紙に構成することができたか。	A B C		
III 創造的な技能 1枚の画用紙の中に写真の特性を生かして自分の世界観を表現することができたか。	A B C		
制作の感想、自分の作品を見て思うこと			

[memo]

附 美術館に行ってみよう

この課題は、1～3（前・後期ともに）の1課題のかわりに1レポートとして認められます（面接時間にはなりません）。1～3が終わっている人はこの課題を提出する必要はありません。

-
- 課題の種類：鑑賞（美術1の学習書 p. 82～95、75～80 参照）
 - 観点：①関心・意欲・態度 ④鑑賞の能力
 - 想定する時間：2時間
-

実際に展覧会に行ってみましょう。以下の項目を参考にレポートしてください。

まずは「美術展ナビ」や「artscape」などのサイトを検索して、興味を持った美術館の展覧会サイトにアクセスしてしてみてください。

1. 展覧会名、展覧会の会期、展覧会場
2. どのような内容、テーマの展覧会だったか。一人の作家の展覧会か。たくさんの作家による展覧会かなど。
3. 展覧会全体の感想。自由に書いてください。
4. 好きな作品について、その作品のどういうところが好きか、それを見てどういうことを感じたかなど。
5. チラシなどがあったらそれも添えて下さい。スケッチなどもいいですね。館内でのスケッチやメモは作品を保護する意味で鉛筆を使うようにしましょう。

クラス	番号	氏名
<input type="checkbox"/> 日時（展覧会に行った日）	年	月 日（曜日）
<input type="checkbox"/> 展覧会名		
<input type="checkbox"/> 会期		
<input type="checkbox"/> 展覧会場		
<input type="checkbox"/> 展覧会の概要（自分の言葉でまとめてください）		
次のページへ		

展覧会全体の感想

好きな作品、興味を持った作品について

その他 チケットや写真などを貼り付けてもよい。

前期3 思い出をつづる — 記憶ってなんだろう

- 課題の種類：絵画
- 観点：振り返りシート参照
- 想定する制作時間：2.5時間

暗闇に幼な児がひとり。恐くても、小声で歌をうたえば安心だ。子供は歌に導かれて歩き、立ち止まる。道に迷っても、なんとか自分で隠れ家を見つけ、おぼつかない歌をたよりにして、どうにか先に進んでいく。 ジル・ドゥルーズ／フェリックス・ガタリ

自分の小さい頃のことを思いかえしてみましよう。ぼんやりとでもイメージは浮かびますか。まずは思い出したことを言葉にして書き出してみましよう。個条書きでもよいです。そして、それを形に置き換えてみましよう。落書きのようでもかまいません。それが具体的なものでなくてもかまいません。その時の空気のおい、街のざわめき、手に取ったときの感触…。他の人にわからなくても、自分にとって重要なことはたくさんあるでしょう。

[memo] ジル・ドゥルーズ／フェリックス・ガタリ ドゥルーズはフランスの20世紀後半を代表する哲学者。ガタリは精神科医。引用は二人の共著『千のプラトー』から。

用意するもの： 絵の具、鉛筆、色鉛筆、ペンなど画材は自由。画用紙（B5）

1. 小さい頃の記憶をたどってみましよう。すぐにイメージが浮かばない人は、まず思いついたことを言葉にして書きだしましよう。
2. 1からいくつかのテーマを選び出します。思い出がはっきりしていたらしっかりと描写してもいいし、ぼんやりしていたら形がはっきりしていなくてもかまいません。
3. 2でできたイメージを見ながら自分の記憶をもう一度整理します。言葉から始めた人はその言葉も残しておきましよう。
4. 自分の作品のイメージに合った画材を選んで仕上げていきます。

思い出の場所を訪ねてみてもよいでしょう。思わぬ発見をするかもしれません。子どもの頃に遊んだ公園は意外に小さいかもしれません。友達と交わした言葉や約束がよみがえってきたりすることもあるでしょう。思い出したくないことは無理に思い出す必要はありません。ひとつでもふたつでも優しい思い出や楽しい思い出を見つけることの方が大事なのです。

記憶というのは過去の記録ではありません。それは「今」のあなたが、「今」のあなたの時間の中に投影する「今」の出来事なのです。必要のない記憶はだんだんと薄れていきますし、ときには他の記憶と交錯することもあります。それが私たちの記憶のあり方なのです。実は私たちは記憶のほとんどの部分を言葉に頼っています。その中で決して「言葉にならないもの」が絵画のなかには少しだけ残されているのではないのでしょうか。

生徒作品 いろいろな記憶のかたち



いろいろな表現が可能だと思います。自由に取り組んでみてください。

振り返りシート 必ず提出すること

美術Ⅱ前期3 《思い出をつづる》 -記憶って何だろう	クラス	番号	氏名
観点の項目	自己評価	反省点やうまくできたと思うことなど	
I 美術への関心・意欲・態度 あらためて自分と向き合うこと で、記憶とは何かについて考 えてみたか。	A B C		
II 発想や構想の能力 イメージを実際の作品の形に するために、時間をかけてしっ かりと構想を練ったか。	A B C		
III 創造的な技能 構想したイメージを表現する のにふさわしい画材を選んで 作品に取り組んだか。	A B C		
制作の感想、自分の作品を見て思うこと			

[memo]

前期2 ものを見る — 静物ってなんだろう

- 課題の種類：絵画 静物画 水彩（淡彩）
- 観点：振り返りシート参照
- 想定する制作時間：2時間

芸術とは、現に目に見えるものを描写再現することではなく、見えないものを目に見えるようにすることである。

パウル・クレー

石ころでもいいし、空き缶でもいい、ボールペンでもいいです。何か1つ、机の上に置いて観察してみましょう。それから手に取ってみましょう。重いですか、軽いですか。柔らかいですか、堅いですか。冷たいですか、温かいですか。匂いはしますか。上下左右から眺めてみましょう。どんな色ですか。どんな形ですか。模様はありますか。鉛筆でスケッチをして、淡彩でそれを描いてみましょう。

[memo] パウル・クレー（1879-1940）スイス出身の20世紀前半を代表する画家。抽象的で美しい水彩画などの作品も多数ある。

用意するもの：鉛筆、透明水彩絵の具、画用紙（B5）

1. 必ずしも自分に描きたいものがあるとは限りませんよね。では、まわりを見渡してみましょう。自分の手で持てそうなものをひとつ。何でもいいのです。普段は忘れてしまっているようなものを見つけてみてください。
2. しばらくじっと観察してみましょう。目の前にある「それ」を言葉で表せますか。例えば白とか、赤とか、簡単に言ってしまってもいいかもしれません。どのように白なのか。
3. 今度は手で触ってみましょう。どんな手触りですか。ザラザラしていますか。重さはどうですか...
4. 画用紙に硬めの鉛筆（HB～2Hくらい）で下描きをします。ものが台（机やテーブル）の上に置かれていることを意識して描いてください。ものと台が接している部分もていねいに見ます。影も固い鉛筆を使ってていねいに描いておきましょう。台の方向を意識し、ものが置かれている状況をつかみましょう。
5. 下描きができたら透明水彩で薄く色をつけてみましょう。淡彩ですので薄く、薄く。鉛筆が透けて見えても大丈夫。2で言葉にした事は表現できていますか。
6. 「振り返りシート」は作品と一緒に必ず提出してください。

影になる色をグレーだと思って、白+黒で表現したくなる気持ちはわかります。ただ、白を混ぜると不透明で重たくなるので、淡彩では必ずしも適した表現ではありません。例えば美術Iでも学んだように、濃い緑+濃い赤など補色を混ぜてグレーを作ってみましょう。

生徒作品 何か面白いものは見つかりましたか。さあ、楽しんでやってみましょう。



普段使っているボールペン。プラスチックの透明感や、台の上に置かれた感じがよく表現されています。



身の回りの小さなもの。1時間じつくりと眺めてみたことはありますか。ものを見ることは大切な時間なのです。



金属のアクセサリ
ーの感じがよくで
ています。硬い鉛
筆 (Hや2Hなど)
でしっかりデッサ
ンしてから薄く絵
の具を塗ることが
ポイント。

振り返りシート 必ず提出すること

美術Ⅱ前期2 《ものを見る》 -静物って何だろう	クラス	番号	氏名
観点の項目	自己評価	反省点やうまくできたと思うことなど	
I 美術への関心・意欲・態度 ものをていねいに観察し、もの の持つさまざまな表情を見つ けることができたか。	A B C		
II 発想や構想の能力 ものが台の上ののっているよ うすや、ものが置かれた空間を 意識したか。	A B C		
III 創造的な技能 水彩画（淡彩）の技法を通して 自分が感じたことを伝えるこ とができたか。	A B C		
制作の感想、自分の作品を見て思うこと			

[memo]

前期1 写しとる — 表面ってなんだろう

- 課題の種類：絵画（版画的、彫刻的な要素を含む） フロッタージュ
- 観点：振り返りシート参照
- 想定する制作時間：1時間

私にとって現実を決して芸術品を作るための口実ではなかった。そうではなく、芸術は私が見るものを私自身がよりよく理解するのに必要な手段なのです。

アルベルト・ジャコメッティ

紙と鉛筆をもって散歩に出ましょう。ただしスケッチではありません。例えば地面を見てみましょう。マンホールがあったり、小さな草が生えていたり。小さいころはそんなことに興味を持って歩いたりしませんでしたか。紙を上のにのせて、鉛筆でこすって、それをそのまま写し取ってみましょう。なんだかそれが自分のものになったような気がしてうれしくなりませんか。

[memo] アルベルト・ジャコメッティ（1901-1966）スイス出身の20世紀を代表する彫刻家。針金のように細長く引き伸ばされたプロポーションの人物彫刻で有名。

用意するもの： コピー用紙ぐらいの厚さの紙（A3）、柔らかめの鉛筆など

1. 近所でも学校への道でも休みの日にゆったりと歩いてみましょう。春の空気をいっぱいに吸い込んでください。
2. 普段は忘れてしまっているようなものを見つけてみてください。
3. ものに紙を直接のせて鉛筆でこすってみましょう。少しでも凹凸があれば写るはずですが、小さい頃にコインの表面を写し取ってみたことはありませんか。思い出してみましょう。
P.1-3 生徒作品参照。
4. 写し取った脇にメモを入れてみたらどうでしょう。日付でも、場所でも。
5. 紙にたくさん写し取ってみてください。
6. 「振り返りシート」は作品と一緒に必ず提出してください。

物の表面を写し取る絵画技法をフロッタージュといいます。表面をうまく写すには「物」、「紙」、「鉛筆」の力のバランスをとることが大事です。強すぎても弱すぎてもだめです。うまく写っているかを眼で確認しながら、力のいれ具合を調節してみてください。

写し取られた形をよく見てみましょう。普段私たちが見ているものとは違ったものが紙の上に見えてきたのではないのでしょうか。私たちがいかにあいまいにもものを見ているかがわかるでしょう。美術で「ものを見る」ということは実はこんな作業なのです。

振り返りシート 必ず提出すること

美術Ⅱ前期1 《写しとる》 -ものの表面って何だろう	クラス	番号	氏名
観点の項目	自己評価	反省点やうまくできたと思うことなど	
I 美術への関心・意欲・態度 身のまわりを観察し、ものの表面の持つさまざまな表情を見つけることができたか。	A B C		
II 発想や構想の能力 何を写すか、どのように写るかなどフロッタージュのしくみを考えながら取り組むことができたか。	A B C		
III 創造的な技能 フロッタージュの技法を生かして、ひとつの作品として表現することができたか。	A B C		
制作の感想、自分の作品を見て思うこと			

[memo]